



15分が心を磨く —弥富北中学校「自問清掃」—

学校ホームページ



弥富北中学校では、毎日15分間、「自問清掃」に全校で取り組んでいます。

校内を磨きながら、自分自身とも向き合うこの清掃時間は、弥北の伝統として受け継がれ今年で21年目を迎えました。

卒業生たちは、この15分を通して多くのことを学んできたと言います。

今回は、卒業生たちの「気づき」をお伝えします。

ある生徒は、1年生の頃、何をどのように清掃すればよいのか分からず、ただ床を磨いていたと振り返ります。しかし、続けるうちに、「どれだけ汚れに気付けるか」を意識するようになりました。2年生で広い廊下の清掃を担当した際には、終わりが見えず途方に暮れたこともあったそうです。それでも、「どこにごみやほこりがたまっているか」「取りこぼしはないか」を考えながら清掃に没頭することで、長く感じていた15分が変わっていったといいます。

また、「黙って清掃をしていればよい」と考えていた生徒もいました。しかし、「継掃会」などを通して先輩たちの姿に触れ、「根気玉・親切玉・発見玉」を意識しながら清掃に取り組むようになりました。そして今では、「学校がきれいになるだけでなく、自分の心も磨かれていく」と感じているそうです。

「たかが15分」と思っていた気持ちが変わったという声もありました。黙々と汚れと向き合う仲間や、誰も気付かない汚れを探す仲間の姿を見て、それぞれが自問清掃に意味や意義を見つけていることに気付いたといいます。粘り強さ、集中力、発見する力…15分の中で得られるものは、人によって異なります。

3年間を通して、「毎日こつこつと続けること」の大切さを実感した生徒もいます。最初は伝統の意味が分からなくても、積み重ねることで「中学生としての成長」とはまた違う、自分自身の「心の成長」を感じられるようになったと言います。

さらに、自問清掃と受験勉強を重ね合わせる生徒もいました。「15分間の自問清掃を真面目にできない人が、勉強を真面目にできるはずがない」という言葉に心を動かされ、自分自身を見つめ直したそうです。集中して取り組む力は、勉強や部活動、そして将来にもつながっていく。そんな思いが後輩たちへ託されています。

また、積み重ねの重みを実感したという生徒は、「1日15分でも、1週間では75分になる」と言います。小さな積み重ねを大切に、自分自身と向き合うことで、真剣に取り組む姿勢が身に付いていったそうです。

「根気玉・親切玉・発見玉」という言葉から、水晶を思い浮かべた生徒もいました。校庭で見つかるような小さな石でも、時間をかけて磨き続ければ、美しく価値のある水晶になる。自問清掃を通して、日々の積み重ねが人を成長させることを学んだといいます。

卒業生たちは口をそろえて、「15分を大切にしたい」と後輩たちへ伝えていきます。

毎日の清掃を通して、自分自身と向き合い、心を磨き続ける。

弥富北中学校の自問清掃には、これからも生徒たちの成長を支える大切な時間が流れています。





広島研修



ピカドンの悲劇

弥富中学校 田口 桃果 たぐち もか

【ガイドさんのお話より】

1945年8月6日、広島県に世界初の原子爆弾が落とされました。市内は一瞬で焼け野原になり、多くの尊い命が奪われました。ガイドさんから聞いた話の中で最も印象に残っているのは広島平和都市記念碑についてです。そこに刻まれている文を英語にすると、『Let all the souls here rest in peace. For we shall not repeat the evil.』だそうです。主語を「We」にすることで、全員という意味が強調され、「みんなで」平和な世界をつくるという誓いなのだと感じました。

どんなに辛く苦しいものでも、過去の事実をしっかりと受け止めることが大切だと考えました。また、受け止めたものを次世代につないでいくのは私たちの世代に委ねられている使命だという気持ちで、平和への歩みを止めず平和な世界に貢献したいです。

これらを胸に留めて、被爆された方々が伝えてきてくださったこと、今ある平和に感謝し、次は私たち若い世代がそれをつないでいくべきだと改めて実感しました。また当時の方々が自分の思っている正義を貫いていたようにさまざまな視点があると感じたので、そのような考え方を今後にも生かしていけるようにします。



【平和をつくるために】

実際に広島を訪れたことで、今の生活が当たり前でないことを再認識できました。事前学習では平和のためにできることはないと思っていたけれど、できることもあると気付きました。まずは身近な人との関係を大切に、さりげない優しさを積み重ねて大きな平和につなげていきます。また世界で起きている戦争について知るなど、まず「知る」だけでも平和への一歩だと思います。そして平和をつくるために私たちが考えるべきことは過去の悲劇を知らないことと突き離し無縁だと考えずに、教訓として未来に受け継いでいくという責任を果たすことなのではないでしょうか。

これからの未来に向けて

弥富中学校 岡戸 星那 おかど せな

【平和への道のり】

「平和」の定義は人それぞれですが、まず一番に考えるのは「戦争を起こさないこと」だと思います。私たちがご飯を食べたり勉強したりできるのは当たり前ではありません。実際、80年前の広島は焼け野原で、生きていくこともままならない状態でした。生き残ったとしても後遺症や食料不足で苦しむ毎日。そんな人達がいたことを忘れてはいけません。私たちができることは戦争を忘れないこと、そして語り継ぐことです。

【広島に行って】

事前学習や金本さん（日本被団協の方）のお話を聞き、広島で起きた戦争や核兵器の恐ろしさを知っていたつもりでしたが、いざ広島での平和記念資料館へ行ってみると、「私は知っているつもりで全然知らなかったのだ」と思いました。このようなことを二度と繰り返さないために、考えるよい機会になりました。今の私たちが平和に暮らしていけるのも奇跡で、一日一日を大切に生きていきたいと思いました。

